

静岡県海岸防災林における森林整備方針(概要版)



1. 方針策定の目的

- 海岸防災林は、飛砂防止、防風、潮害防備などの防災機能に加え、生物多様性機能や保健休養機能など多様な役割が求められている。
- 東日本大震災による津波被害を受けて津波被害軽減効果に対する期待も高まっている。
- このため、防災機能に加え、津波被害軽減効果が高く、保健休養、生物多様性機能など多様な機能を持つ新たな海岸防災林を整備・育成するために本方針を策定する。

2. 森林整備方針

- 防災機能に加え、津波被害軽減効果を高める。
- 海岸からの影響の強さによって林帯を概ね3区域に区分し、目標林型を選定する。
- クロマツ林帯の配置により防災機能を確保する。
- 内陸側の土地利用の状況や利用形態により樹種を選定する。
- 効率的、継続的な管理の実施と経費縮減を図る。



3. 目標林型の選定の考え方

- 林帯を浜側、中心部、陸側の3区域に区分し、それぞれの区域で目標林型を選定する。
- 目標林型の選定にあたっては、海岸の施設整備や、内陸側の土地利用状況、海岸防災林に求める役割など、利用形態や地元住民の意向を考慮する。

現状イメージ

- ・クロマツ林が中心
- ・松くい虫被害や火災により一部消失
- ・広葉樹が自然侵入



目標林型の例



4. 今後の課題

- 海岸防災林に侵入した広葉樹の活用と管理手法の検討
- 地元住民が参加する仕組みづくりの検討
- 津波被害軽減効果を高める施設整備手法の検討

